

# トランプには、敬意とともに毅然として

ラ・ホルナダ紙社説

2024 年 11 月 7 日

昨日の早朝、ドナルド・トランプは、大統領府に戻るのに十分な選挙人の票を確保した。トランプ氏の勝利を可能にした主な要因としては、ハリス氏が所属する民主党政権時代の経済運営に対する幻滅（特に、2022 年以降続いている高インフレと、物価上昇を抑制するための金利引き上げ）と、共和党候補が実質 4 年間途切れることなくキャンペーンを行ったのに比べ、民主党候補が不明瞭な提案を提示しなければならなかった期間が 3 ヶ月と、短期間であったことが挙げられる。

トランプが勝利し、共和党が上院を掌握することが確実となり、下院も保守的な共和党が過半数を維持する可能性が非常に高いことから、当面のトランプ主義の見通しを描くことができる。アメリカ国民にとって、状況は暗い。トランプという権力資本家によって推進される、腐敗し、野蛮な資本主義は、労働者の権利、平等、貧困対策、教育、医療、そして全般的な福祉指標において壊滅的な後退を予告している。財政削減や国家の縮小といった政策が、個人主義の狂信的な実力主義神話に洗脳された社会で、大きな支持を得ているとしても、そのような施策は富をため込む人々、有名な 1%の人々を優遇するだけだという証拠がある。経済だけでなく、女性、アフリカ系住民、先住民、移民、性的多様性コミュニティ、その他のマイノリティは、権利の喪失、権利剥奪、さら

には政府への反感に苦しむだろう。それらは、トランプの最初の4年間に既に見られた犠牲であった。

アメリカ国外では、最も大きな被害が、苦境にあるパレスチナの人々に及ぶだろう。バイデンとハリスのコンビがイスラエルのジェノサイドを臆面もなく支持したとすれば、シオニズムの最も極端なバージョンに同調し、戦争犯罪で国際刑事裁判所から逮捕状が出ている首相の友人であることを誇らしげに示す人物が大統領府に戻ったとき、ベンジャミン・ネタニヤフ政権がどこまでやるか想像するのも恐ろしい。一方、フロリダを拠点とするクーデター集団とトランプ主義が緊密に連携しているため、キューバやベネズエラに対する帝国主義の侵略が増大することも予測される。中国との関係は、引き続き悪化するであろう。アジアの巨人は欧米の嫌がらせに対して大きな抵抗力を見せているが、地政学的緊張が高まり続けるのは事実だ。また、2017年から2020年にかけて、すでにそうであったように、アメリカとヨーロッパの同盟国との間にさらなる亀裂が生じることも予想される。

メキシコについては、選挙戦で使用され、トランプの勝利演説で再確認された論理は、憂慮すべきものである。メキシコは、選挙で事実上の勝者となったトランプが、選挙民の最も忠実な中核を構成する人種差別主義者、外国人排斥主義者、排外主義者を扇動する非難の主な標的となり続けている。今後注目すべきは、彼が大量の強制送還、高額な関税の課税、国境の閉鎖といった脅しを本当に実行するつもりがあるのか、そしてそれが実行可能かどうかである。これらの措置はどれも、アメリカ経済とメキシコ経済の双方に多大な打撃を与える可能性がある。これは、アメリカが重要な活動分野で移民労働力に依存していることや、メキシコからの輸出品に課税することで、アメリカ国内の企業や消費者にとってあらゆる商品の価格が負担できないレベルにまで引き上がる現実があるためである。第1次トランプ政権の経験から、この権力政治家は、脅迫を現実にした結果への対処よりも、喧嘩好きのイメージを植え付けることに関心があることがうかがえる。

これらの過去の事例が示す教訓は、明確である。トランプは、言葉による暴力や弱者への攻撃を常とする人物であるため、メキシコは少しでも弱みを見せるべきではない。新しい関係を、弱さを示す形で始めることは、壊滅的な結果を招くであろう。なぜなら、そのような姿勢を見せれば、権力家である彼は、それを、メキシコに対して横暴な手段を取る招待状と見なすからである。メキシコが自国の主権の防衛、尊敬、対等な関係が二国間関係において譲れない条件であることを強く伝えれば伝えるほど、共和党のトランプが脅迫を実行に移そうとするリスクは低くなるであろう。（了）

**ラ・ホルナダはメキシコの日刊紙**

**【翻訳チェック 新藤通弘】**